



3-2340

0026

附屬書類添附

大正三年拾月廿六日接受

駐政務局長 第一課

遞監 第七八八〇號

大正三年十月廿二日

朝鮮總督府政務總監山縣伊三郎

外務次官松井慶四郎殿

郵便護衛方ニ関スル件

本件ニ関シ間島郵便局長ヨリ別紙寫ノ通  
申越有之必要ノ義ト認メ夫ニ付郵便物  
運送集配途中危険ト認マル場合ニ於テ郵

便局長ヨリ相當護衛方要求シタルトキ直  
チ之ニ應セラルル様間島領事ニ通達相成  
矣様致度夫也

郵便護衛  
手子前ニシテ各々ノ  
係務アリシモノ  
也トシテトシテ  
係務アリシモノ  
也トシテトシテ

本會對  
照會同答ハ  
必ク本書日附  
及番號ヲ記  
載スルコト

22765

第  
19  
門

朝鮮總督府  
政務局長  
山縣伊三郎  
外務次官  
松井慶四郎  
郵便局長  
間島  
申越有之必要  
ノ義ト認メ夫  
ニ付郵便物  
運送集配途中  
危険ト認マル  
場合ニ於テ郵  
便局長ヨリ相  
當護衛方要求  
シタルトキ直  
チ之ニ應セラ  
ルル様間島領  
事ニ通達相成  
矣様致度夫也

郵便局長ヨリ  
申越有之必要  
ノ義ト認メ夫  
ニ付郵便物  
運送集配途中  
危険ト認マル  
場合ニ於テ郵  
便局長ヨリ相  
當護衛方要求  
シタルトキ直  
チ之ニ應セラ  
ルル様間島領  
事ニ通達相成  
矣様致度夫也

本署ニ關スル文書ノ照會ニハ必ス本署ノ月日記番號ヲ記入アリトシ

朝鮮總督府遞信官署

向不<sup>レ</sup>一〇三〇号

大正三年十月三日

朝鮮總督府遞信局 岡島親任<sup>ル</sup>長

監理課長殿

不穩ノ際<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>ハ郵便物護衛等ノ件<sup>ハ</sup>本署<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>ハ  
警務總監部<sup>ヨリ</sup>派<sup>出</sup>加藤警視<sup>ヨリ</sup>宗<sup>任</sup>報告<sup>ナ</sup>リ  
テ左記<sup>ノ</sup>通り通報<sup>接</sup>シ矣<sup>付</sup>萬<sup>一</sup>テ慮<sup>テ</sup>ハ通達<sup>係</sup>手<sup>配</sup>止  
一層注意<sup>ヲ</sup>拂<sup>フ</sup>上<sup>ニ</sup>同時<sup>ニ</sup>當地領事<sup>ニ</sup>對<sup>シ</sup>テ報<sup>任</sup>通達<sup>係</sup>  
中<sup>ニ</sup>危險<sup>ヲ</sup>認<sup>ル</sup>ル時<sup>ハ</sup>相當<sup>ノ</sup>護衛<sup>ヲ</sup>附<sup>随</sup>シ矣<sup>テ</sup>ハ<sup>ハ</sup>岡島<sup>殿</sup>  
ト交渉<sup>セ</sup>ル<sup>ル</sup>ニ<sup>テ</sup>該領事<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>ハ去<sup>來</sup>得<sup>ル</sup>限<sup>リ</sup>其<sup>ノ</sup>要<sup>求</sup>  
應<sup>ジ</sup>テ<sup>ハ</sup>後<sup>任</sup>人員<sup>ノ</sup>差<sup>違</sup>得<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>又<sup>ハ</sup>旅費<sup>ノ</sup>關係<sup>上</sup>要<sup>求</sup>

難應事之可有之向已ナク久ク危険ノ状態継続スル場合ハ  
 人員不足ヲ若クハ全ク其需ニ難應場合ニ立チ至ル故  
 毛難針甚不本意ノ義ニハ一平素ニ於テ危険ノ場合  
 ニ對スル復衛ヲ相當措置又採リ置クニ要アリト思料  
 セラレニ付是等取極メハ總督府ヨリ直接外務省ニ御  
 交渉ノ上該省ヨリ當領事館ニ命令相成様相當年  
 續復行セラルル是レ最モ捷徑ナリト云フ義ニ付曖昧  
 野蠻ナル排日思想ヲ抱ケル鮮友人ノ舉動甚ク危険ナル  
 故ニ急遽御向ヨリ外務省ニ相當御交渉ノ上何時ヲリ  
 トモ當領事館ニ對シ復衛ノ要ナリル場合ハ  
 速ニ附帶セシム様御取計相成候矣  
 西岡島ニ於ケル暴徒首魁金昇龍内毛外毛清野百草

本館ニ附スル文書ノ照置ニハ必ス本書ノ月日記番號ヲ記入アリシム  
 朝鮮總督府遞信官署

溝石華洞后任金東震在暴徒ニ對シ左記命令ヲ發  
 シ之ガ實行ノ方メ各所ニ密偵ヲ派セリ  
 暴徒中身體強健者數十名ヲ選ヒ各所ニ遣ヒ日本ノ  
 郵便遞送人ヲ要所ニ於テ暗殺シ一面電線ヲ切斷シ鮮  
 内地ヨリ岡島一ノ通信ヲ不能ナラシム一ト云々  
 以上

本館ニ附スル文書ノ照置ニハ必ス本書ノ月日記番號ヲ記入アリシム  
 朝鮮總督府遞信官署



文書課長

大正三年七月廿八日 接受

28

大正三年七月廿八日 起草

別紙

機密

送第

號

第一課

在

中

七

主管 政務局長

人事課長

會津澤水

支田 津義濟要再田

大正三年七月廿日 達濟

機密送第五九號

立石島

加茂大臣

鈴木總領事代理宛

邦便物獲術方ニ向スル

件

外務省

邦便物獲術方ニ向スル朝鮮總督

府ヨリ紙寫ノ通照會ノ次第有之

右ニ至極必要ノ義ト認テラレリ

本件調査振書ニ向シテハ總督府

調査ヲシテ外務省調査ヲ兼テシムル

ト案ナリ之ハ一共右ハ諸般ノ事

情ニ鑑ミ却テ不都合ナル事態シ

生スルノ虞モアリ且貴館ニ於テハ



査中教人在勤セルヲ以テ本件要求  
 ニ應タルモ終ニシテ支障可無之ト  
 恩考改リニ付以際審口現在ノ  
 貴館立勸巡查ヲ経済府要勤  
 トナシ要求 都府 順当其他  
 適宜貴方ノ裁量ヨリ出張セ  
 ンメ之ニ對スル旅費・手當・賞與  
 等ハ之ヲ経済府例ヲシテ支出セシ  
 ムルニトシ 改定就テハ一應本件ニ向  
 スル 貴官ノ意見ヨリモ 弟知改  
 定度ニ付 何分ノ義内 回示未成  
 度以テ申述也

外務省

外務省 外務省 外務省

外務省 外務省 外務省



大正四年 壹月 六日 接受

管政務

第一課

政機密第八號

大正三年十二月二十六日

在間島

總領事代理領事鈴木安太郎



外務大臣男爵加藤高明殿

人事課長

會計課長

支出

郵便物護衛方ニ付キ朝鮮總督府

照會アリタル件ニ関シ注意

見申出ヘキ旨客月廿日附政機

趣致承致 貴當地方ニ於ケル

在間島帝國總領事館

郵便遠送区域ハ之ヲ四線ニ区

別セラレ去即チ

一當地會寧間 此行程往復二日シテ毎朝差立

二當地頭道溝間 此行程往復一日シテ毎朝差立

三當地局子街間 此行程往復一日シテ毎朝差立

四局子街百草溝間 此行程往復二日シテ三日毎差立

(右ニ總テ騎馬ニ依ルモノトス)

以上、次第ニ付右四線ニ護衛巡查

ヲ附スルトキハ當地會寧間ハ往復

行程二日ナルヲ以テ毎日合計五名

内局子街百草溝間ハ三日毎ニ差立

中間一日ハ休便ナレハ一人ヲ以テ

受持ト假定スノ巡查ヲ要スルコト

水建務、  
郵便物護衛方ニ付キ朝鮮總督府

ト相成 矣處當館警察署警官勤  
 務狀況ニ関シテハ別紙金子署長  
 報告ノ通りニテ五名ヲ署員中ヨ  
 リ派遣スルハ頗ル困難ナルノミナ  
 ラス若シ護衛ヲ必要トスル不穩  
 ノ原因が單ニ郵便脚夫ノ携帶  
 スル金員ヲ奪取セントスル盜賊的  
 ノ意味ニアラスシテ日本人一般ニ對  
 スル所謂排日的暴動ナルニ於テ  
 ハ假令一名ニテモ之ヲ派遣スルハ  
 頗ル困難トスル所ニ有之矣  
 抑モ當間島ハ茲ニ申述フル迄テ  
 モ十ク一種變態ノ土地ニシテ其

在間島帝國總領事館

領土ハ支那ニ屬スルニ拘ラス居  
 住民ノ大多数ハ朝鮮人ニシテ其  
 數ヲ抱ケル不逞ノ鮮人頗ル多ク  
 穩謀紛擾ノ如キハ常ニ絶ハ間ナ  
 キニ拘ラス支那官憲ノ施政ハ到  
 底完全ニ安寧秩序ヲ維持スル  
 能ハズ在住本邦人ノ治安ハ僅ニ  
 當館在勤十二名ノ警官及各分  
 館ニ在ル二三名ノ警官ニ依ルニ  
 外ナラス之ヲ南滿地方等ト比較  
 スルニ(勿論當地方トハ土地ノ性質  
 ヲ異ニシ矣得共)同地方ニ駐屯



師團獨立守備隊（一個旅團半）及  
 憲兵隊等ノアルニ拘ラス各領事  
 館及警察署在勤警官ハ支那人  
 ヨリ採用スル巡捕ヲ合シ執レモ  
 百名（奉天ノ如キハ二百名以上トス）  
 以上ニ達シ在任本邦人ニ對スル  
 警備ノ点ニ於テ當地方トハ實  
 帝國各領事館所在地ハ大抵鉄  
 道又ハ船舶ノ便アルモ當地方ハ  
 右等ノ便ナキルミナラス何レ地方  
 ニ赴クニモ險山激流ヲ越ヘサル  
 へカラス其不便實ニ想像ノ外  
 ニ有之若シ一朝事變ニ際會ス  
 ルトキハ在任民ノ避難頗ル困難  
 ニシテ對岸朝鮮側ヨリ兵力又  
 ハ警察力ヲ得ル迄デノ時日ヲ  
 如何ニシテ支持スルヤ頗ル苦  
 慮スル所ニ矣處只タ鮮支人ノ  
 情態ニ對シ常ニ細心ナル偵察  
 ヲ急ラズ豫メ之ヲ探知シ萬  
 遺算ナキヲ期スルノ外無之ト  
 存矣而シテ本件郵便護衛ノ  
 必要アル不穩ノ原因ニシテ  
 排日の意味ヨリ來ルモノナル  
 ニ於テハ一般在任民ニ對スル

在間島帝國總領事館

警戒上最モ注意ヲ要スル危機  
 而シテ暴徒ハ決シテ郵便ニ對シ  
 テノ之ヲ怒ミテ有スルモノニアラサル  
 ヲ以テ郵便ノ危険ナルトキハ在  
 住民一般ニ對シ警戒ヲ要スル  
 危機ニ矣間右等ノ場合ニ人員  
 僅少ナル警官ヲ郵便物護衛ノ為  
 ノ派遣スルハ頗ル困難トスル  
 所以ニ有之矣  
 然ル處郵便ハ時ニ多額ノ現金又  
 貴重品ヲ輸送スルコト有之矣  
 間別ニ不穩ノ情況ナキモ是等  
 場合ニ當リ盜賊ノ奪取ヲ防  
 ヲ為メ警官ヲシテ護衛セシメ  
 タシトノコトナルニ於テハ其度數ノ多  
 カラサル範圍ニ於テ綜合セ警官ヲ  
 派遣スルハ差支ナキ儀ニ矣間右  
 ニ付キ當地郵便局長ニ對シ協  
 議ヲ遂ケ矣處專ラ當地會寮間  
 郵便線ニ於テ時々多額ノ現金  
 又ハ重要品ヲ輸送スルコトアルヲ  
 以テ是等ノ場合ニ護衛ヲ得タシ  
 トノ意ニテ毎月平均三四回一  
 回ハ往復二日ヲ要ス其ノ必要アリトノ  
 事ニ矣間本件ハ卑見ヲ以テスレハ

在間島帝國總領事館

左記ノ如ク致度ト存シ矣  
 一 郵便物ニ対シ護衛ヲ必要トス  
 ルトキハ前日迄テニ當館ハ照會  
 スベキコト  
 二 右ノ場合ニハ其時ノ情況ニ依リ當  
 館巡查又ハ總督府所屬當館勤  
 務ノ朝鮮人巡查補ヲ派遣スル  
 コト(輕易ナル任務ニハ鮮人ヲ當ラシメ  
 少シク重要ナル場合ニハ日本人ヲ以テス)  
 三 一ヶ月平均三回位ノ範圍ニ於テ之  
 ニ應スヘキニ排日的不穩等ノ  
 場合ニハ應セサルコトアルハ勿論トス  
 四 當館巡查派遣ニ要スル費用ハ  
 在間島帝國總領事館  
 外務省ヨリ支出シ總督府所屬  
 巡查補派遣ノ費用ハ總督府ヨ  
 リ支出スルコト  
 當館警察官ニ總督府警察官ヲ  
 兼任セシムヘキ旨指示ノ次第有  
 之右ハ費用ノ点ヨリノ儀ト存セラ  
 レ夫處別紙金子署長提出ノ當  
 館警察署巡查配置並ニ勤務狀  
 況書ニ詳細記載有之矣通リ  
 當館警察署ニハ總督府所屬朝  
 鮮人警察部一名及同朝鮮人巡  
 査補三名常ニ署務ヲ補助致  
 居リ又各分館ニ於テモ大抵總

は初めは  
のり  
のり

108  
18

27

督府所属ノ朝鮮人巡查補各分館  
 ノ警察事務ヲ補助致居リ去處  
 右等ノ俸給其他ノ費用ハ凡テ總  
 督府ヨリ支出致居リ去儀ニ付キ  
 本件護衛警官派遣費用中當  
 館警官ニ関スル分ハ本省ヨリ支  
 出セラル、ヲ妥當ト考ヘラレ去而シテ  
 右ハ別記ノ通り一々年豫算僅ニ  
 百五拾參圓ニ過キス去間右様御  
 詮議相成去様致度此段回答  
 旁申進去敬具

記

一ヶ月平均一回半即チ三日トシ其

在間島帝國總領事館

日當及馬糧代一日參圓五拾錢ヲ  
 要スヘキニ付一々年百貳拾六圓ヲ要ス  
 當地會寧間ハ道路險惡ニシテ之ヲ  
 一日ノ行程ヲ以テ騎馬ニテ疾走スル  
 ハ困難ノ任務ナルヲ以テ一回壹圓五  
 拾錢ノ賞與金ヲ與フルモノトセバ一々年  
 貳拾七圓ヲ要ス  
 以上合計百五拾參圓



別紙

在間島總領事館警察署長  
大正三年十二月十六日 外務省警部金子長次郎

總領事代理領事鈴木要太郎殿

當館警察署巡查配置并勤務狀況、開スル件

〔當館警察署目下ノ配置巡查拾貳名、シテ(内巡查部長二名)巡查勤務法ハ之ヲ分チ外勤内勤ノ貳種トス

〔外勤々務本勤務ハ甲乙二部、分チ内衛

在間島帝國總領事館

巡查派出所、於テ一昼夜障日勤務、服シ一部、定員四名  
巡查部長ヲ以テ一部、班長トス

内一部、朝鮮總督府派遣朝鮮人巡查補壹名、之ヲ配置ス

内勤々務ハ日勤トシ之ヲ大別シ一本館書記壹名、主管理事務公文書類、簿籍、并テ廢務

一警察署受附書記貳名、主管理事務、調度、統計、文書、整理、保存、其他廢務

内務省ハ朝鮮總督府派遣解人巡查  
補佐名ヲ配置ス右ハ解人ニ対スル受附  
系ト通譯ヲ兼務ス

〔視察係〕 或名主管事務犯罪捜査系  
用依視察其他特別勤務

以名ハ朝鮮總督府派遣解人巡查補  
ヲ配置シ專ラ朝鮮人側視察勤務ハ  
〔警業衛生係〕 或名主管事務警業衛  
生ニ関スル件

〔庶務係〕 或名主管事務庶務  
事務及調馬蹄鐵打替ハ系ニ囚人外役  
ノ係着守

以上巡查系ニ巡查補合計於五名  
在間島帝國總領事館

〔朝鮮總督府〕 派遣解人警部  
右ハ警部署長補助トシテ專ラ在留解人  
間ニ於テ諸種ノ警部事務處理系ニ裁判事務  
對シ通譯ヲ兼務ス

〔外勤々務法〕  
當龍井村ハ我カ警察事務ハ商埠  
章程ニ未確定ナルト支那警察  
ノ不完全ナル為メハ商埠地内警察  
系ノ中心点トシテ在留日解人  
ニ對シ諸種ノ取締任シ就  
中交通警業衛生其他諸般ノ行  
政警察系ヲ執行スルニトシテモ  
專管居留地ト直毛モ異ナル

在間島帝國總領事館

二下ナキヲ以テ外勤ニ重キヲ置  
 キ即チ勤務ヲ甲乙二部得ル  
 トシ一部ノ定員ヲ四名内持  
 巡査部長ヲ以テ其部ノ班長  
 巡邏戸口調査等專ラ治安  
 保維ニ充ツル等總テ本邦  
 警視廳ニ於ケル派出所、其  
 當地方ハ交通ノ便未ダ開  
 ケス加シ僻陋各地ニ散在ス  
 ル分館等アリ從テ諸般ノ  
 特別事件殊々不逞鮮人等  
 對スル支那側ノ政策的庇  
 護各種ノ紛擾及穩謀等突  
 發スル爲メ所定ノ勤務、服  
 シ難キ場合頗ル多シ若シ朝  
 鮮總督府派遣ノ警察官  
 吏ノ到揚クル等ノ事アラシ  
 カ當警察、如キハ勿ク在留  
 日鮮民保護事務、上ニ支  
 障ヲ生スル付右等ノ場合ハ  
 總督府派遣警察官、如キ鮮人  
 警官ヲ外務省、於テ是非共  
 任命ノ上配置、必要有之候  
 一朝鮮總督府派遣警察官吏ノ狀況

在間島帝國總領事館

明治四十二年間島總領事館開設  
 セラルルニ及ビ統監府間島派出所  
 引續淺留派遣員トセラレ現  
 在ニ及ビタル職員九ノ如シ  
 一憲兵中尉ニシテ朝鮮總督府  
 警視シ兼ヌルモ一名(本邦人)  
 一朝鮮總督府警視壹名(朝鮮人)  
 一警部壹名(同上)  
 一通譯生壹名(同上)  
 一令巡査及巡査補 七名(令上)  
 外ニ本邦人タル雇員壹名アリ  
 以上朝鮮總督府が間島ニ於ケ  
 ル不逞鮮人ノ情況偵察ノ為  
 在間島帝國總領事館  
 ノ特派遣シタルモノニシテ内警  
 部壹名巡査補三名ハ當館警  
 察事務ノ多端ナル為メ開  
 館當時ヨリ便宜補助員ト  
 シテ使用スルト統監府ニ於  
 テ承認シ来リタルモノナリ  
 右ハ當館ニ附随シタルモノナルモ  
 更ニ各分館ニ在リ配置アリ  
 一尙子衛分館  
 一憲兵軍曹タル朝鮮總督府警  
 部  
 一鮮人巡査補 貳名  
 一頭道溝分館



憲兵軍曹、シウ朝鮮總督府警	部	名	壹
一輝春分館	部	名	壹
憲兵伍長、ル朝鮮總督府警	部	名	壹
一解人巡查補	部	名	壹
一百草溝出張所	部	名	壹
憲兵伍長、ル朝鮮總督府警	部	名	壹
一解人巡查補	部	名	壹
尤、當館警務署、於、勤務	部	名	壹
ル、警務、係、員、以外、ハ、總、於、私、脈	部	名	壹
シ、テ、勤務、從、事、ス	部	名	壹
各分館、本省警務、係、職員、配	部	名	壹
置、現、在、數	部	名	壹
向子街巡查、四、名、内、壹、名、巡查部長	部	名	壹
頭通溝主任代理、ル、警、部	部	名	壹
百草溝出張所主任、警、部	部	名	壹
一輝春分館、署、長、(警、部)	部	名	壹
石、之、通、リ、茲、御、報告、申、進	部	名	壹

在間島帝國總領事館

文書課長 龍井  
大正四年一月廿日 接受

大正四年一月十五日 起草  
同 年 月 日 附

機密送第四號

大正四年一月廿日 送達  
主管政務局長

第一課

證書 校正

寫送付 大正四年一月廿日

機密送第五號

石島 郵務

朝鮮總督府  
山縣政務總監

松平 次官

郵便物復讐方之関ス件

外務省

大正四年一月廿七日 記録第二部 接受

本件ニ関シ本年十月廿二日附第 監字七八〇  
號 書信ヲ以テ申出テ、  
河島總領事代理 書見 徵 傳 康  
川 官 於 之 地 郵便 局長 協 洋 子 遂 ケ 夕  
ル 上 事 申 出 事 第 一 本 今 般 念 郵便 物 復 讐  
方 之 復 讐 事 件 右 様 申 出 知  
事 申 出 高 洋 子 一 日 郵便 局長 之 事 申 出 知  
事 申 出 之 事 申 出 知 候 也

文書課長

大正四年一月廿日 接受

大正四年一月十五日 起草  
同 年 一月 十五日 附

機密

送第

號

第一課

主任

管政務局長

會計課長

人事課長

豫算發達濟要再四

支出

大正四年一月廿日

機密送第 四 號

在 河 島

加 藤 大 長

鈴木總務代理

郵便物護衛方之圖之件

本件は河島喜年十二月二十六日附機密第八〇

外務省

雖貴信より河島申越、趣き承蒙

官派遣費用中、貴館警官二名之

分として、本年豫算金百五拾叁圓支出義

許可致候、件右豫算額ノ超過也也

範圍内ニ於テ貴信申越、申越

取申在申、貴館所屬警官等署長

ハ本件ニ関シ直接貴信より河島申越

在申、此等併シ申越候也